

いぐさ・畳表の変色に関する試験

第1報 普通刈りにおける刈取日と変色の関係

北原郁文・中村 駿・田中忠興 (福岡県農業総合試験場筑後分場)

KITAHARA, I., S. NAKAMURA and T. TANAKA: Influence of Some Conditions to Discoloration of Mat Rush and "Tatami Facing". 1. Influence of Different Harvesting Time of Mat Rush to Discoloration.

いぐさは、刈取後ただちに泥染め乾燥しなければならないため、1日の刈取量は乾燥機の容量によって制約される。したがって、農家では、圃場毎に刈取予定日を定めて栽培するが、一方、1筆の圃場でも刈取が数日に及ぶのが現状である。そこで、刈取予定日と刈取日とのずれが、乾燥後のいぐさの色調の変化に及ぼす影響を検討したので、その概要を報告する。

1. 試験方法

- 1) 供試品種: あさなぎ (1981年12月11日植付け)
- 2) 刈取予定日: 7月15日
- 3) 刈取日: 7月7日, 15日, 22日
- 4) 調査項目

(1) 熟度別茎相分析 泥染め乾燥済いぐさを、第1表のように7段階に分類した。

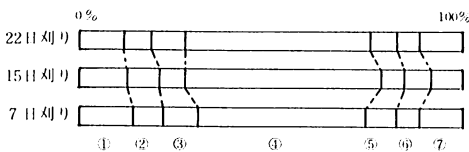
(2) 変退色処理 成熟茎の中央部分を、温度25℃、湿度76%の暗室に放置し、10, 20, 40, 60日後のクロロフィル含有量と色調を測定した。

第1表 熟度別茎相分析

分類	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
茎長	60-90cm	90-105cm	105-120cm	120cm以上	120-105cm	105-90cm	90-60cm
熟度	老熟茎			成熟茎	未熟茎		

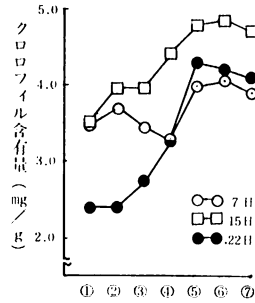
2. 試験結果および考察

1) 熟度別茎相分析 各刈取日ごとの結果を第1図に示した。15日刈りに比べて、7日刈りは成熟茎の割合が少なく、未熟茎および老熟茎の割合が多かった。22日刈りは、成熟茎の割合は大差なかったが、未熟茎の割合がやや多くなった。

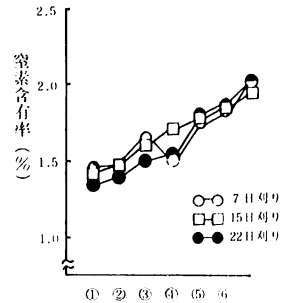


第1図 熟度別茎相分析 (茎数割合)

2) 熟度別クロロフィル含有量と窒素含有率 クロロフィル含有量を第2図に示した。15日刈りが、7日刈りおよび22日刈りより、いずれの熟度でも含有量が多かった。熟度別には、老熟茎で22日刈りがいちじるしく少なく、未熟茎では、7日刈りがやや少なかった。窒素含有率を第3図に示した。15日刈りに比べて、老熟茎では22日刈りが低く7日刈りが高かった。未熟茎では、22日刈りが高く7日刈りが低い傾向がみられた。各刈取日とも、未熟茎ほど含有率は高くなった。



第2図 熟度別クロロフィル含有量



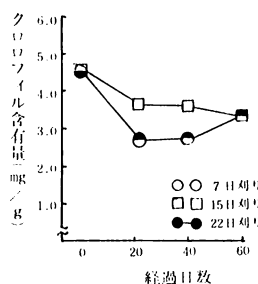
第3図 熟度別窒素含有率

3) クロロフィル含有量の経時変化 クロロフィル含有量の経時変化を第4図に示した。クロロフィル含有量は、処理日数が経過するにつれて減少したが、15日刈りが7日刈りおよび22日刈りよりもややゆるやかに減少した。しかし、60日経過後では、刈取日間の差はなかった。

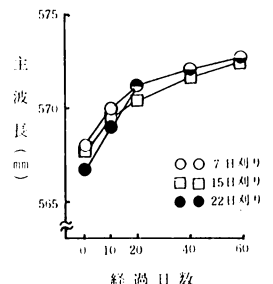
4) いぐさの色調の経時変化 色調の中で色相を示す主波長の経時変化を、第5図に示した。変退色処理前の色調は、15日刈りに比べて7日刈りは、明度が低く主波長がやや高い黄味がかかった暗い黄緑色であったのに対し、22日刈りは、明度が高く主波長がやや低い明るい黄緑色であった。色調の経時変化については、15日刈りに比べて7日刈りが、各経過日数においてやや黄味がかかった色調で変色したが、処理40日以後では色調に大差なかった。22日刈りは、15日刈りと差がなく、処理40日以後では、刈取日間の差はみられなかった。

3. まとめ

収穫後のいぐさの色調は、早刈りにおいて明度が低く暗い黄緑色で劣った。また、早めに刈取ったものは、遅刈りに比べて色調の変退色がやや早く、色調保持のためにも予定日より早く刈り急がないほうが良いと思われる。



第4図 クロロフィル含有量の経時変化



第5図 主波長の経時変化